

2/16 3.3

宇宙軍拡も日米一体

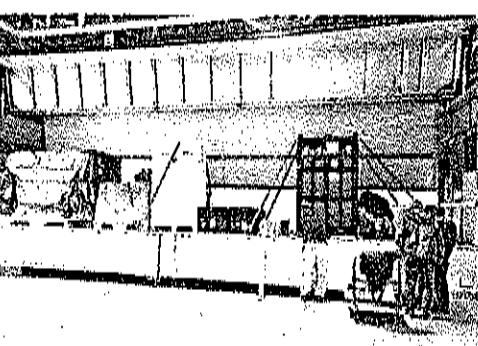
米国生産の宇宙軍拡のもとで、日本による宇宙の軍事利用が強まっています。1月には、日本の衛星に搭載する米軍のセンサーが横田基地に到着。今年中の打ち上げが計画されています。

米軍横田基地に到着したのは、日本の準天頂衛星に搭載する観測機器です。米軍横田基地に到着したのは、日本の準天頂衛星に搭載する観測機器です。米

軍横田基地は、「1月17日に米宇宙軍宇宙システム軍団を支援するため、日本の準天頂衛星システムに搭載する観測機器（ペイロード）2基のうちの一基団を送り届けた」と発表しました。

米軍のセンサー 日本が打ち上げ

省。2024年度をめどに、新型の「H3ロケット」で打ち上げの予定です。20



年12月に、日本の宇宙開発戦略推進事務局と米宇宙軍による覚書調印を受けた。日本政府による宇宙安全保障措置です。

宇宙を「戦闘領域」と位

とに宇宙の安全保障構想を策定する方針を表明しました。日本政府による宇宙安全保障関連の戦略文書を作成はじめとなりました。

置付けた米国は、宇宙軍の創設など宇宙の軍事利用を進めています。今回の観測機器の打ち上げにより、米軍にとって、トビアでの静止軌道上の宇宙領域把握機能を強化することができるといふられます。一方、日本防衛省も米国と連携して宇宙を監視する体制の構築を頑張り、宇宙空間が軍拡の新たな舞台となっています。

準天頂衛星システム 米国が運用するGPS（全地球測位システム）を補完・補強するため日本が導入したシステムです。同システムの測位衛星は、日本での利用に適した独特的な「準天頂軌道」や静止軌道に投入され、GPS衛星と同じ信号などを発信します。通常の静止衛星は赤道

上に位置します。その軌道を斜めに傾けて日本の本土を通る軌道にすることによって、日本からは天頂付近に長時間ともあって見えます。そのため「準天頂」は呼ばれています。日本政府は、GPSなしでも日本周辺で測位可能な「日本版GPS」の実現に必要な7基体制の構築を計画しています。

国家安全保障戦略を含む「安保3文書」は、「宇宙の安全保障分野での対応能力を強化する」ことを強調しています。岸田文雄首相は

東京・横田基地に到着した日本の準天頂衛星に積み込む米宇宙軍の貨物（1月17日（米国防総省映像情報配信センター提供））